豊田厚生病院 麻酔科専門研修プログラム



1．専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時

に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本専門研修プログラムは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

- 本専門研修プログラムの特徴としては、西三河北部の地域中核病院において活躍できる専門医を育てるべく少人数専攻医に対して多症例数の研修を目指す。
- 地域中核病院において対応すべき症例は網羅されており、特に心臓血管手術麻酔に関しては本プログラム4年間のうち100症例/人を目標とする。連携施設として小児病院を含んでおり小児麻酔研修が可能である。また連携大学病院を含めたICU研修、基幹施設でのペインクリニック研修など幅広いサブスペシャリティへの研修移行も可能である。
- 専攻医1名あたりの麻酔管理経験症例の豊富さから問題解決能力に優れ、迅速な判断ができる、体の動く麻酔科専門医を養成する。専門医取得のための必須5領域経験症例数については、最初の基幹施設2年間の研修で達成可能である。
- 本研修プログラムは西三河北部地域医療に貢献できる人材を養成することを目的としており、研修終了後は希望があればプログラムを構成する施設に続いて就業を可能とするが、他の地域医療の担い手として希望する施設で就業することも可能である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 原則的に2年間は、基幹施設で研修を行う。
- 残りの２年間に関しては専攻医のニーズに応じて、以下の研修を自由に組み合わせて希望することができる。

    ① 大学病院における麻酔・ICU・ペインクリニック研修

    ② 小児専門病院における麻酔研修

    ③ 豊田厚生病院におけるペインクリニック＋麻酔研修

研修実施計画（例）

年間ローテーション表

	1年目	2年目	３年目	４年目
A	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	大学病院（麻酔・ペイン, ICU）	小児病院（麻酔）
B	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	大学病院（麻酔・ペイン, ICU）	豊田厚生病院（ペイン＋麻酔）
C	豊田厚生病院（麻酔）	豊田厚生病院（麻酔）	小児病院（麻酔）	豊田厚生病院（ペイン＋麻酔）

週間予定表

豊田厚生病院での一例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	術前外来 or手術室	術前外来 or手術室	術前外来 or手術室	当直明け 休み	術前外来 or手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	当直明け 休み	手術室	休み	休み
当直 /待機	麻酔待機		救急当直 （2年目まで）				

- 当直明け、麻酔待機における深夜帯業務明けは確保を保証する。
- 毎日 17 時頃、翌日分の症例のカンファレンスを行う。

  予定手術患者は予め早期に「入退院支援センター」 → 「麻酔科術前外来」を受診

  しているため、術前情報が紙一枚にコンパクトにまとめられており、併存症に

  対する介入も万全に行われた状態で手術に臨むことができる。

  専攻医は担当症例についてプレゼンテーションを行う。
- 学会発表を年一回行うことを義務とする。はじめは地方会での発表を目指し、

  経験値を積んだところで統計学的考察を行う臨床研究に取り組む。

  倫理委員会のサポートで適切に臨床研究を行うことができる。

  どのような臨床研究を行ったら患者さんに良い診療をフィードバックできるか

  熟考し、指導医と相談して遂行する。
- 院内での勉強会、講演会や委員会が積極的に行われているので参加し見聞を広める。

  院外での勉強会、講演会も積極的に参加する。

専門研修基幹施設

JA愛知厚生連
豊田厚生病院
TOYOTA KOSEI HOSPITAL

豊田厚生病院　http://toyota.jaaikosei.or.jp/

https://www.instagram.com/toyotakosei_hospital/

研修プログラム統括責任者：上原博和　anest.trust@gmail.com

専門研修指導医：上原博和（麻酔）

小島康裕（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

岩伶（麻酔・小児麻酔）

伊藤雅人（麻酔・集中治療・小児麻酔）

酒井博生（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

川口里奈（麻酔）

川口大地（麻酔・ペインクリニック・緩和医療・無痛分娩）

麻酔科認定病院（認定第1456号）

特徴：

・西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。

・地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり年間救急車受け入れ約8,000件を行っている。ドクターヘリによる搬送、ドクターカーの運用を行っている。

・成人心臓血管手術が年間160例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当する

ことで経験値が多く得られる。

・Hybrid 手術室にて、EVAR・TEVAR・TAVI・LAAC 症例が増えている。

・硬膜外麻酔、末梢神経ブロックについてはそれぞれ年間150例以上修練が可能である。

・動画教育に力を入れている。麻酔手技 YouTuber「あねす亭ふぇん太」氏との独占提携により一般公開もしくは非公開の大量動画を閲覧することができ、各自のペースで手技に対する理解を深めることが可能である。

・麻酔時緊急状態には「緊急コールシステム」により瞬時に指導医群がヘルプに駆けつける事が可能である。

・術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「術前検査センター」機能の運用と「麻酔科術前外来」に携わることにより、雑務を極力アウトソーシングしつつかつ術前評価不足無く患者把握が出来る。

・ペインクリニック専門医指定研修施設である。

超音波ガイド下神経ブロック、X線透視下神経ブロック（350例/年）、手術療法を積極的に取り入れており修練が可能である。

・麻酔科医主導で無痛分娩管理を行っており修練が可能である。

・日本緩和医療学会基幹施設であり、緩和ケア講習会を定期的に開催している。

・日本緩和医療学会指導医資格を有する麻酔科医を中心に緩和ケア病棟を運営している。

・麻酔科医が緩和ケアチームの一員として関わっており、がん性疼痛にも神経ブロック及び手術療法を積極的に施行している。

専門研修連携施設

浜松医科大学医学部附属病院



https://www.hama-med.net/AneDepartment/index.asp

麻酔科認定病院（認定第 158 号）

研修実施責任者：中島芳樹

専門研修指導医：中島芳樹（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）

御室総一郎（麻酔，集中治療）

五十嵐 寛（麻酔，医学教育，ペインクリニック）

栗田忠代士（麻酔，心臓血管麻酔）

谷口美づき（麻酔，産科麻酔，ペインクリニック）

八木原正浩（麻酔，小児麻酔）

青木善孝（麻酔，集中治療）

内崎紗貴子（麻酔）

成瀬 智（麻酔，産科麻酔）

川島信吾（麻酔，心臓血管麻酔，医療安全）

加藤弘美（麻酔、集中治療）

木村哲朗（麻酔，ペインクリニック、緩和医療、区域麻酔）

小林賢輔（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

佐藤恒久（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

鈴木興太（麻酔，ペインクリニック、区域麻酔）

和久田千晴（麻酔，小児麻酔）

西本久子（麻酔）

桂川孝行（麻酔、集中治療）

大嶋進史（麻酔，ペインクリニック）

溝渕有助（麻酔，集中治療）

今井亮（麻酔，集中治療）

専門医：高木真奈（麻酔）

鈴木康仁（麻酔，集中治療）

特徴：豊富な指導医が在籍する大学病院を中心に、手厚いサポート体制のもとで安心して研修を開始できます。若手のうちから多様かつハイレベルな症例に関わる機会が豊富で、基本的な麻酔管理から高難度手術の全身管理、術後疼痛管理まで、実践を通じて着実に臨床力を高めることができます。

さらに、麻酔科医が主体となる集中治療室での重症患者管理をはじめ、ペインクリニック、緩和医療、小児麻酔、産科麻酔・無痛分娩など、幅広いサブスペシャリティを横断的に経験できる環境が整っており、早期から自身の興味や専門性を深めることが可能です。

また、医療安全やシミュレーション教育を専門とする麻酔科医も在籍しており、体系的かつ実践的なトレーニングを受けながら、安全性と質の高い医療を学ぶことができます。学会発表や論文執筆の機会も豊富に用意されており、臨床経験にとどまらず、学術的な視点からもキャリア形成を支援する体制が整っています。日々の診療・教育・研究が一体となった環境の中で、確実な成長と将来の専門性の確立を目指すことができます。

専門研修連携施設

名古屋市立大学病院

http://www.ncu-masui.jp/

研修実施責任者：祖父江和哉　kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：祖父江 和哉　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

田村 高廣　（麻酔，心臓麻酔，集中治療）

田中 基　（麻酔，周産期麻酔）

杉浦 健之　（麻酔，いたみセンター）

徐　民恵　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

田村 哲也　（麻酔，集中治療）

加藤 利奈　（麻酔，いたみセンター）

藤掛 数馬　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

上村 友二　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

佐藤 範子　（麻酔，いたみセンター，周産期麻酔）

佐藤 玲子　（麻酔，いたみセンター）

横井 礼子　（麻酔，周産期麻酔）

青木 優佑　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

中井 俊宏　（麻酔，集中治療，救急医療）

牧野 佑斗　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

山添 大輝　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

長谷川 達也　（麻酔，集中治療，周産期麻酔）

永井 梓　（麻酔，周産期麻酔）

吉村 真弓　　（麻酔）

友成 毅　　（麻酔，集中治療，いたみセンター）

麻酔科認定病院番号：55（西暦 1968 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

大学病院として高度先進医療を提供するとともに，名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している．教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し，幅広い分野での研修環境が整っている.小児から成人まで豊富な症例があり,小児麻酔,心臓血管麻酔,超音波ガイド下神経ブロック,ハイリスク妊婦の周産期麻酔など幅広く研修できる.同時に,集中治療（closed-ICU，PICU）の研修を通して,麻酔から ICU までシームレスな管理を学ぶことができる.また、いたみセンター,無痛分娩センターにおいても,希望に応じて専門的な研修が可能である.その他,病院併設のシミュレーションセンターでは,年数回のハンズオン講習を実施しており,シミュレーターを用いた経食道エコーなどの練習が随時可能である.

専門研修連携施設

あいち小児保健医療総合センター　http://www.achmc.pref.aichi.jp/

研修実施責任者：　宮津　光範

専門研修指導医：　宮津　光範（小児麻酔、小児集中治療、医療経済学）

山口由紀子（小児麻酔、産科麻酔）

加古　裕美（小児麻酔）

渡邉　文雄（小児麻酔、小児心臓麻酔、心臓エコー）

青木　智史（小児麻酔、小児集中治療、臨床倫理）

北村　佳奈（小児麻酔、小児心臓麻酔）

一柳　彰吾（小児麻酔、QI）

川津　佑太（小児麻酔、シミュレーション教育）

専門医：　中野　晃輔（小児麻酔、心臓麻酔）

森下　博隆（小児麻酔）

澤田　健　（小児麻酔）

手﨑　貴友（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：1472

特徴：すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。

＜当センターの強み＞

A. 概要

小児病院出身のエキスパートから直接指導が受けられる。指導医によるバラつきを極力減らすために制定された「標準手順書」に従って丁寧な指導を行う。標準手順書は最新のエビデンスに基づき毎年アップデートされている。急激に進む少子化の中にあっても麻酔件数は例年並を維持している。小児麻酔技術の習熟に最適な短時間手術が多く、短期間で効率よく経験を増やすことができる。MRI・CT などの手術室外鎮静も麻酔科医が行っている。希望者は分娩時鎮痛（無痛分娩）に関与することもできる。

B. 独自の教育システム

高機能・高忠実度マネキンを用いた先進的な麻酔シミュレーション、スタッフによる系統レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。英語の教科書を使った症例ベースの勉強会をフェロー主体で行っている。スタッフはアドバイザーとして参加する。

C. 小児心臓麻酔

新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が増加中であり、症例数は東海北陸地方で最多である。当センターは心臓血管麻酔専門医認定施設であるが、心臓血管麻酔専門医が複数名在籍する小児病院は全国でも稀である。フェローは 3 ヶ月経過後から心臓麻酔研修を開始する。3D コンピュータグラフィックスを利用した経食道心エコー教育を導入している。センター内に 3 台の小児用 EXCOR を保有しており、心臓移植待機目的の LVAD 管理を積極的に実施している。

D. 学術活動

臨床研究や論文執筆を含む研究指導にはとくに力を入れている。論文執筆時にはスタッフが責任をもってサポートするが、執筆は強制されない。名古屋大学医学部連携大学院を小児センター内に併設しており、当センターで勤務しながら「PhD; 博士（医学）」の学位取得が可能である。その他の学位取得実績としては、「MPH; 公衆衛生学修士（専門職）」、「MBA; 修士（経営学）」などがある。大学院授業の履修に支障がないように配慮された柔軟な勤務が可能である。

E. PICU

麻酔科は PICU の運営には直接関与していないが、希望者は PICU 研修が可能である。東海北陸地方最多である 16 床の PICU は、麻酔科出身者を含む小児集中治療科専属医師らにより closed 運営されている。術後だけでなく救急経由の入室も多く、小児 ECMO は全国トップクラスの症例数と成績を誇る。

F. 小児救命救急センター

ドクターヘリ搬送およびドクターデリバリー（当センター医師をヘリで派遣）が増加傾向であり、愛知県だけでなく岐阜県や三重県からも広く小児重症患者を集めている。

専門研修連携施設

愛知医科大学病院　http://aichi-med-u-anes.com/

研修実施責任者：野手　英明

専門研修指導医：野手　英明　（麻酔、心臓麻酔、集中治療、ペインクリニック）

梶浦　貴裕　（麻酔、小児麻酔）

村松　愛　　（麻酔、集中治療、周産期麻酔）

稲垣　友紀子（麻酔、集中治療）

髙橋　徹朗　（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

佐藤　航　　（麻酔、集中治療）

中村　健人　（麻酔）

岡本　さくら（麻酔、集中治療）

上甲　利南　（麻酔）

鳥居　麻衣　（麻酔）

貞利　隆文　(麻酔、集中治療)

麻酔科認定病院番号：99

愛知医科大学病院の専門医育成の理念

理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

特徴

教室全体として JRACE, JBPOT, 麻酔専門試験などの認定試験の試験対策・勉強会などを行い資格の取得をバックアップしている。

取得可能なサブスペシャリティ

集中治療専門医　　心臓血管麻酔専門医　　ペインクリニック専門医

専門研修連携施設

名古屋大学医学部附属病院

https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/departments/anesthesiology/

研修実施責任者：秋山　浩一

専門研修指導医：秋山　浩一（麻酔、心臓血管麻酔）

荒川　陽子（麻酔）

柴田　康之（麻酔、ペインクリニック、区域麻酔）

鈴木　章悟（麻酔、集中治療）

浅野　市子（麻酔、ペインクリニック）

川瀬　宏和（麻酔、集中治療）

尾関　奏子（麻酔）

園部　奨太（麻酔、集中治療）

山根　光和（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）

安藤　貴宏（麻酔）

赤根　亜希子（麻酔）

平井　昂宏（麻酔、集中治療）

佐藤　威仁（麻酔、集中治療、ペインクリニック）

米倉　寛（麻酔、集中治療）

駒場　智美（麻酔）

谷口　菜奈子（麻酔）

藤井　祐（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）

天野　靖大（麻酔）

三澤　知子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：38

特徴：

名古屋大学医学部附属病院麻酔科では、年間 7,500 件以上の麻酔管理症例を有しており、超低出生体重児から超高齢者まで、あらゆる年齢層・疾患に対応した高度な麻酔研修が可能です。

2025 年度には、心臓血管外科 727 例、胸部外科 537 例、脳神経外科 413 例、帝王切開 185 例、6 歳未満の小児 472 例の麻酔管理を実施しており、幅広い診療科にわたる多様な麻酔症例を経験できます。特に小児麻酔分野では、2013 年に小児がん拠点病院に指定されて以降、小児外科、小児整形外科、小児脳神経外科などの小児がんに対する手術麻酔において豊富な実績を誇ります。2021 年度からは小児への Da Vinci 手術も開始されており、高度な小児外科手術麻酔の研修も可能です。

産科麻酔では、母体合併症や胎児異常を有するハイリスク妊婦の帝王切開麻酔を多く担当しており、超緊急帝王切開では決定から 30 分以内の娩出を目標に、産科チームと密に連携しながら迅速な対応を実現しているほか、無痛分娩にも対応しています。

心臓血管外科領域では、CABG や弁置換術に加え、大動脈瘤などの大血管手術にも積極的に取り組んでいます。重症心不全センターを併設し、年間約 10 例の体内式左室補助人工心臓（LVAD）植え込み術を行っており、心移植適応患者への高度な麻酔管理経験を積むことが可能です。2022 年度からは小児心臓外科手術が開始され、2025 年度には約 80 例の小児心臓外科手術の麻酔を行い、小児循環器麻酔にも深く関わることができます。

また、当院では腎移植・肝移植・心移植に対応しており、2025 年度からは肺移植も 4 例実施されました。移植医療の麻酔という、極めて専門性の高い領域においても実践的な経験を積むことができます。

そして、当院のもう一つの大きな特色が、麻酔科主導の Closed ICU である「外科系集中治療部（SICU）」の存在です。SICU では 2025 年度には年間 2,135 例の重症患者を受け入れています。その約半数が術後症例ですが、残りの半数は敗血症、ARDS、肺炎、急性腎障害といった重症疾患であり、集中治療を要する重症病態に広く対応しています。麻酔科医が中心となって診療を行う Closed ICU 体制をとっており、術後管理だけでなく、感染症・呼吸循環不全・多臓器不全などの集学的治療を通じて、高度な重症病態の管理スキルを身につけることができます。

麻酔科専攻医は 3〜6 ヶ月間の SICU ローテートが可能で、集中治療専門医の取得を目指す場合には、必要に応じてさらに研修を継続することができます。多職種連携を重視したチーム医療が行われており、医師としての視野を広げながら、麻酔＋集中治療の二本柱でのキャリア形成が可能です。

さらに、週 3 回のペインクリニック外来および入院管理も行っており、慢性疼痛や神経ブロック、がん性疼痛に対する介入など、麻酔関連領域にも幅広く対応できる力を養うことができます。

名古屋大学医学部附属病院麻酔科は、手術麻酔にとどまらず、集中治療、移植医療、小児・産科・心臓外科麻酔、ペインクリニックといった多岐にわたるフィールドで質の高い教育と実践の場を提供しています。豊富な症例数と充実した指導体制のもと、将来の専門医・指導医を目指すために最適な研修環境を整えています。

専門研修連携施設

愛知厚生連 安城更生病院

病院ウェブサイト　URL http://anjokosei.jp/

研修実施責任者：森田 正人　　syrch127@ybb.ne.jp

専門研修指導医：森田 正人　（麻酔、小児麻酔、集中治療）

山本 里恵　（麻酔）

谷口 明子　（麻酔、心臓麻酔、集中治療）

久保谷 靖子　（麻酔）

井上 雅史　（麻酔、集中治療)

田渕 昭彦　（救急）

久保 貞祐　（救急、集中治療）

専門医：太田 一志　（麻酔）

佐々木 貴久　(麻酔)

田中 万優子　(麻酔)

麻酔科認定病院番号 246（西暦 1996 年 麻酔科認定病院取得 ）

施設の特徴

1. 愛知県西三河南部圏最大の中核病院で常に東海地区マッチング率上位であり、優秀な研修医が多いため病院中が活気に満ちている。他診療科が麻酔科に非常に協力的であり，有能なメディカルスタッフと協働できる恵まれた職場環境が整っている。
2. 高いレベルを誇る心臓手術麻酔を経験できる。開心術に加えて、ステントグラフト内挿術、TAVI 手術や経皮的僧帽弁クリップ術等の血管内手術も多く行われている。

日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB一POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。

3. 同様に他の外科系も名古屋大学を中心とした重要な中核病院であるため, レベルが高く多岐にわたる症例を経験できる. そのため麻酔管理能力の養成に適した環境である。外科、泌尿器科、産婦人科、胸部外科でロボット支援下手術も行われている。
4. 総合周産期母子医療センターを有しており, 超低出生体重児を含めた新生児症例やハイリスク妊婦の麻酔も豊富に経験できる. 日本小児麻酔学会認定医の指導の下、同資格を取得できる。
5. 集中治療，救急も麻酔科が関与しているため希望があれば活躍の場が大きい。
6. 手術麻酔において末梢神経ブロックを積極的に施行しており、十分な研修が可能である。日本区域麻酔検定試験（J-RACE）も多数が合格している。
7. 出産・育児中にある女性医師をサポートできる体制がある。

専門研修連携施設

公立陶生病院　https://www.tosei.or.jp/

研修実施責任者: 伴 麻希子

専門研修指導医: 下起 明(麻酔)

川瀬 正樹(麻酔・集中治療)

伴 麻希子(麻酔)

岩田 恵子(麻酔)

武井　彩（麻酔）

麻酔科認定病院番号:419

特徴:

地域の急性期病院として救急、集中治療、周産期医療などを担っており、市中病院で遭遇する疾患の麻酔を広く経験できます。

気道管理や中心静脈確保に関してはシミュレーターを用いてトレーニングできるようにしています。

希望に応じて集中治療・緩和ケアの研修をすることも可能です。

専門研修連携施設

豊橋市民病院　https://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp/

研修実施責任者：中田 純

専門研修指導医：中田 純（麻酔）

中島 基晶（麻酔）

矢野 華代（麻酔）

佐野 逸郎（麻酔）

山口 慎也（麻酔）

齋藤 公紹（麻酔）

藤田 靖明（麻酔、緩和医療）

松岡 慶（麻酔、小児麻酔）

須貝 温子（麻酔）

舟橋 秀利（麻酔、心臓麻酔）

石井菜々子（麻酔）

斗野 敦士（集中治療、救急）

麻酔科認定病院番号：707

特徴：800 床を有する大規模基幹病院として、人口約 74 万人の東三河地域から多様な症例が集まります。重症例や希少疾患、高度な外科手術に加え、新生児を含む小児麻酔など、幅広い経験を積むことができます。

12 名の専門研修指導医は多様な経歴や得意分野を持ち、丁寧な指導を行っています。

ハイブリッド手術室を完備し、ダヴィンチも 2 台体制で運用しています。全室に

マックグラスや BIS 、筋弛緩モニター、シリンジポンプ 6 台以上を配備しています。7 台のエコー機器を各種神経ブロックや血管穿刺（中心静脈、動脈、小児末梢）に用いています。産科症例も多く脊椎麻酔などの手技の機会も充実しています。当直翌日の勤務免除や年間 27 日の有給休暇取得など無理のない勤務体制も整備されています。希望者は研修後半に半年間の ICU 専従期間を設定することが可能です。

募集定員

7名

4. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，FAX，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．

豊田厚生病院　麻酔科　代表部長　上原博和

〒 470 - 0396

愛知県豊田市浄水町伊保原500-1

TEL 0565-43-5000

FAX 0565-43-5100

E-mail anest.trust@gmail.com

Website http://toyota.jaaikosei.or.jp/

1　麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

(ア)　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能

2）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力

3）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣

4）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

②　麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③　麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

2 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

3 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1 ～ 2 度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。

4 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットによるフィードバック

を行う。研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，専攻医研修実績フォーマット，研修実績および到達度評価表，指導記録フォーマットをもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

5 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる。

6 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

7 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は, 連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない. 研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は, それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③　研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

地域医療への対応

本研修プログラムの施設には，大学病院以外に地域医療の中核病院としての豊田厚生病院，あいち小児保健医療総合センターなどの連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設において麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

また、機会があれば西三河北部の僻地病院（足助病院など）にも専門研修指導医とペアで適宜足を運び、地域医療への麻酔診療提供を考慮する。